

新町前遺跡について

市川三郷町市川大門にある新町前遺跡は、甲府盆地の西部、芦川と笛吹川が合流する地点に近い場所で県立市川高校の敷地内にあります。当センターでは、昨年度に発掘調査を行い、その結果、10世紀前半～15世紀にかけての遺跡であることが判明しました。

10世紀から12世紀（平安時代）には、50軒の竪穴建物跡や川跡から、大量の土器や鉄製品などが発見されました。また一部の竪穴建物跡では、鍛冶炉や鑄羽口（炉に空気を送るための道具）といった鍛冶にかかわるものが見つかり、鉄製品を製作・加工していた集落であることがわかりました。

15世紀（室町時代）には水田跡が見つかり、その中から青磁や白磁といった高級品が発見されるなど富裕層との関わりがみとれます。

また、どちらの時代でも河川の氾濫の痕跡が見つかりました。度重なる水害と戦いながら生きてきた先人たちの生活が発掘調査により明らかになりました。



市川高校



▶上：新町前遺跡（平安時代）
▶下：平安時代の竪穴建物跡内出土土器

整理作業のお部屋

発掘調査を行った市川三郷町の新町前遺跡。現在は発掘調査報告書の刊行に向けて動いているようです。それでは、調査を担当した御山文化財主事に遺跡や現在の作業についてインタビューしてみましょう！

Q1. ————新町前遺跡はどんな遺跡でしたか？

御山：新町前遺跡は今から約1,100～600年前（平安～室町時代）にかけての遺跡です。発掘調査で竪穴建物跡に暮らす平安時代の人々の集落と、室町時代の水田が見つかりました。平安時代の集落では、鍛冶に関連する遺物がたくさん見つかったので、鉄器加工に精通した集落だった可能性があります。水田からは、青磁や白磁が多く見つかりました。当時の青磁・白磁は中国製の高級品なので、権力者との関わりが考えられます。

Q2. ————現在はどんな作業をしていますか？

御山：遺跡の発掘調査の成果（記録）は、出土品や記録図面、写真等の整理作業を経て「発掘調査報告書」を刊行して公開します。現在は、発掘調査報告書の刊行に向けて、出土土器の破片をつなぎ合わせる接合作業を経て、出土した土器の形を図化する作業を行っているところです。

Q3. ————整理作業ではどんな成果が期待できますか？

御山：整理作業で出土した土器を机の上に広げると、灰釉陶器や緑釉陶器といった高級品の多さに驚きました。この地域で暮らした人々の生活様式が思った以上に高いことから、この地域の歴史的な重要性を再認識、再検討する必要があります。

Q4. ————最後に、今後の意気込みをお願いします！

御山：新町前遺跡がある市川三郷町市川大門地域は、これまで遺跡の存在がまったく知られていなかった地域です。その地域にこれだけの密度の遺跡があったことは、これからの地域の歴史構築にとっても重要な成果になります。今後の地域史の発展と継承のために、調査成果の取りまとめに全力で取り組んでいきます。



インタビューに答えてくれた御山文化財主事。

編集後記

7月6日に百舌鳥・古市古墳群が世界遺産に認定されましたね。日本の古墳もついに世界デビューかと思うと嬉しくなります！今号で取り上げた山梨の古墳も魅力にあふれていますよ！「世界」とまではいかないですが「山梨遺産」として知ってもらえれば幸いです！（き）

埋文やまなし 60号
発行 山梨県埋蔵文化財センター
〒400-1508 山梨県甲府市下曾根町923
☎055-266-3016
印刷 株式会社峡南堂印刷所

イベント情報

イベント名	開催場所	開催日
マチナカ博物館	イオン甲府昭和	9月15日（日）
ひらけ玉手箱	国史跡甲府城跡	11月3日（日）
県民の日イベント 古墳ツアー	甲斐風土記の丘 曾根丘陵公園	11月20日（火）

参加無料

甲斐風土記の丘
曾根丘陵公園
周辺の古墳

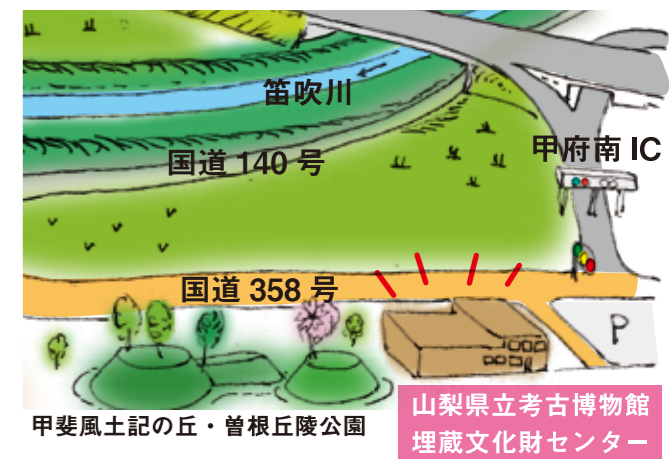


甲府盆地の南側に位置する曾根丘陵には、数多くの遺跡が存在します。

なかでも、山梨県埋蔵文化財センターがある甲斐風土記の丘・曾根丘陵公園とその周辺には、山梨県最大の前方後円墳である甲斐銚子塚古墳をはじめ、東日本でも指折りの古墳が集まっていることを知っていますか？

当センターでは、山梨県の歴史を語るうえで重要な古墳や発見された出土品を身近に感じてもらうために、ウォーキングイベントや、子ども向けのイベントなどを随時開催しています！

というわけで今回の『埋文やまなし』は、古墳を特集！これを読めば、あなたも古墳博士になれるかも！？



山梨県立考古博物館
埋蔵文化財センター

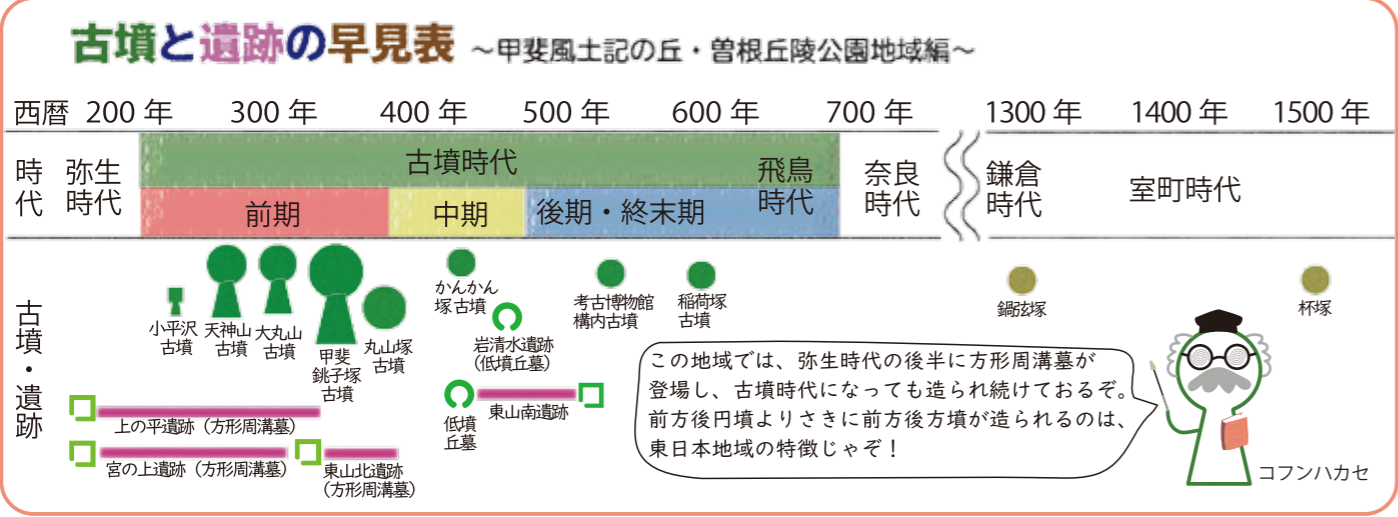
甲斐風土記の丘・曾根丘陵公園周辺の古墳

古墳ってな～に

古墳 KOFUN Q&A クエスチョン

古墳とは今から約 1750 年前から 1300 年前に造られた墳丘をもつお墓のことで、古墳がつくられた時代を古墳時代と言います。

古墳時代は、古墳の形や埋葬施設、納められた副葬品などの違いから「前期」(約 1750 年前～ 1600 年前)、「中期」(約 1600 年前～ 1500 年前)「後期」(約 1500 年前～ 1400 年前)、「終末期」(約 1400 年前～ 1300 年前)の四つの時期に分けられます。



どうして甲府盆地に大きな古墳があるの？

古墳時代は、畿内地域にあったヤマト王権を中心に、各地の首長が連合していました。そして古墳の形や大きさには、埋葬された人たちの社会的な力が反映されたと考えられています。

特に甲府盆地は、東海地域から富士山西麓を経由して、人や文化が活発に行き交う交通の重要な拠点であったことから、古墳時代前期には東日本有数の前方後円墳がつくられたと考えられます。

実は、古墳がつくられる以前の弥生時代から交通の拠点であったようで、弥生時代の頃から上の平遺跡のようにたくさんの方形周溝墓がつくられたり、東海地方の土器が多くもたらされていました。

古墳からどんなものがみつかるの？

古墳から発見されるものには、大きく 2 種類に分かれます。一つは、古墳の中にある竪穴式石室や横穴式石室といった埋葬施設に遺体とともに納められる副葬品。もう一つは、古墳の墳丘上に並べられた埴輪や、おまつりなどに使用されたと考えられる土器などです。

副葬品には、銅鏡、勾玉・腕輪などの装身具、甲冑、剣・刀などの武器、農具、馬具などの金属製品があり、これらは埋葬された人の社会的地位や財力を示すものです。また土器には赤い素焼きの土師器と黒かたい須恵器があります。



Photo by T.Ogawa
甲斐銚子塚古墳出土の三角縁神獣車馬鏡(複製)
山梨県立考古博物館蔵
本物は東京国立博物館蔵



Photo by T.Ogawa
甲斐銚子塚古墳出土の埴輪(県指定文化財)
山梨県立考古博物館蔵



東山南遺跡出土の須恵器(県指定文化財)
山梨県立考古博物館蔵

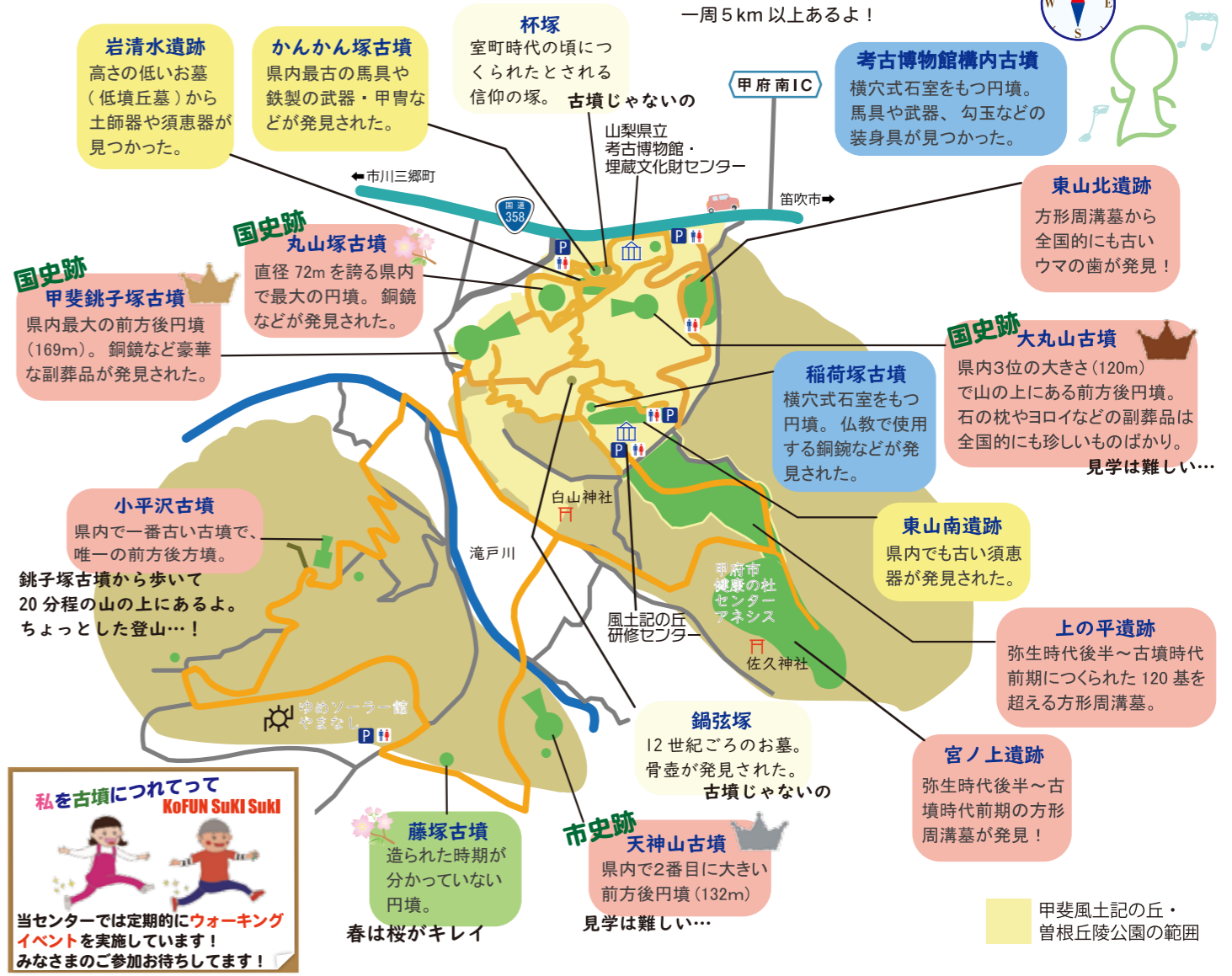


Photo by T.Ogawa
大丸山古墳出土品(複製)
山梨県立考古博物館蔵
本物は東京国立博物館蔵

BIG BIGGER BIGGEST 山梨最大の前方後円墳 甲斐銚子塚古墳をみてみよう！



Kofun Walker 古墳めぐりをしてみよう



コラム 海をわたったお馬さん？

今ではおなじみのお馬さんですが、実は、西暦 400 年頃に朝鮮半島から渡来人が連れてきた動物なんです。以降、乗馬や馬を飼育する文化が広がりますが、ここ甲府盆地は列島のなかでも早い時期に入ってきました。その根拠として、東山北遺跡の方形周溝墓ではウマの歯が見つかり、かんかん塚古墳に副葬された県内最古の馬具がみつかっています。

